



2018. 1. 1

1月ようちえんだより

西神戸 YMCA 幼稚園

新しい年の始まりを迎えました。皆様はどのような気持ちで新年を迎えられたでしょうか。お正月の団欒の中に家庭を持って、子どもが授けられ、親になって子育てを行っていく喜びと責任を感じるひと時もあったのではないのでしょうか。そして、そのような家族同士の関わりの中で子どもたちの将来についても思いを馳せた方もいらっしゃると思われます。

今の世の中「こうしておけば、子どもの将来は大丈夫」といったものはすでに無くなっていると思われます。またいつまでも親が子どもに寄り添って守っていけるわけでもありません。その為親は子どもの将来に役立つだろうと考えて、より高い学歴や能力を子どもに付けさせようと親の気持ちを優先させたりします。しかし、高い学歴や特殊な高い能力を持っていれば確実に社会でうまく生きていくことが出来るわけでもありませんし、そういった学歴や能力を身に付けさせようとする過程で挫折して、生きる意欲さえ失ってしまう子どもがいたり、ともすれば親までも挫折感に陥ってしまっているようなことも数多く耳にします。

幼児期の子どもは、平気で他の子どものおもちゃを取り上げたりします。そんな時に、親がいつも子ども同士のそういった関わりをコントロールしているのであれば、子ども自身は泣くばかりでなく反論したり、反撃したりする経験をしないで成長していくかも知れません。しかし、兄弟げんかの場合は、親の目している前でも平気で言い合ったり、ある時には叩き合ったりもしますが、親もすぐに仲裁したり制止したりはしないでしばらく様子を見ていたりします。そして、この様な経験の違いも、将来に他者とトラブルが生じた時の対応の違いとなって表れる様に感じます。つまり、子どもはけんかや他者とのトラブルを通して他者との関わり方や、距離の取り方を身につけていくことが多々あるわけですが、あまりにも子どもの世界に大人が介入し、大人の価値観が入り込みすぎて、子どもが本当の子どもの世界を体験できないままに、成長していることがあるのではないのでしょうか。

子ども自身が成長して大人になっていく時に本当に必要なものは、自分自身の力で社会の中で生きていくことが出来る力です。そして、その力が身に付くためには、親が常にそばにいて失敗したり傷ついたりしない様に守るのではなく、子どもが自分自身で考え判断をし、問題を解決したり、また解決出来ずに悔しい思いをするといった経験を重ねることが大切だと思われます。そして、そのためにこそ大人の価値観に左右されない子どもの世界が必要なのではないのでしょうか。

子ども同士がぶつかり合いながらも関わり、そしてそのことを通して子ども同士が響き合う関係にまで成長することを信じて、子どもの世界を見守っていきたいと思います。

主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です。」

(エフェソの信徒への手紙5章1節)

1月主題 「ひびきあって」

聖句 “見よ。わたしはあなたと共にいる”

(創世記28章15節)